

校内研修計画

甲州市立東雲小学校

1. 学校課題

本校の児童は、明るく素直であり、友達とも仲良く協力して活動したり、決められたことに真面目に取り組んだりすることができる。縦割り活動などでは、上級生が下級生の面倒をよくみており、そのことが次の学年に引き継がれている。また、地域や学校でも自然にあいさつが交わされるようになってきている。昨年度は次のような実態も明らかとなった。

まず、全国学力・学習状況調査の結果は、算数A、算数Bにおいて、全国と比較しても良好な結果であった。課題としては、思考・判断したことを、言葉や数、式を用いて、的確に表現することであり、特に記述式の設問で、表現不足の解答があった。

次に、山梨県学力把握調査の結果は、3年生、5年生共に県の傾向とほぼ同じか、やや下回る結果となった。課題としては、数学的な考え方を用いて課題を解決することや、それを表現する際の記述に問題があることが分かった。

また、Q-U検査の結果からは、多くの学年で満足型の集団、もしくはそれに近い集団が形成されていることが分かった。ルールとリレーションが確立されていることで、規律ある中にも温かい人間関係が築かれていた。

最後に、日常生活の中では、指示された課題などには一生懸命取り組むが、自ら主体的に考えて行動する姿勢は弱いと感じる。また、友だちの意見を聞くことはできるが、疑問を抱いたり、それを評価し合ったりすることも少ない。友だちの考えを意識して、能動的に「聞く」ことを鍛えたり、自分から進んで課題に取り組んだりすることで、意欲的に学習する姿勢を育てていきたい。

2. 研究主題

「自ら考え判断し、意欲的に学習する児童の育成」

～ 算数科における授業の構造化を意識した学習活動の工夫 ～

3. 主題設定の理由

21世紀は、社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」の時代であると言われており、児童一人一人の自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる資質や能力などの「生きる力」が求められている。

そこで、本年度は、これまで積み上げてきた実践を生かしながら、授業の構造化を意識した授業づくりを行いたいと考える。授業の構造化とは、授業の全体像が把握された上で、その構成要素についても明確になっている様子のことである。教師にとっては、授業のいつ、どこで、何を、どんな方法で行うのが整理されているので、指導しやすいという利点が挙げられる。また、児童にとっては、「学ぶ楽しさ」や「考える楽しさ」を味わえることから、意欲的に学習する姿勢が育つと考えられる。

指導上のポイントとしては、「課題設定の際にめあてを明確に提示し、見通しを持たせるようにすること」、「学び合わせるための手立てを考えること」、「振り返りの部分で学んだことの価値に子ども自身が気づき、深められるようなまとめをすること」の3点である。以上のことに留意しながら学習活動を行いたいと考え、「自ら考え判断し、意欲的に学習する児童の育成」を研究主題として設定した。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 具体的内容

- 算数科における「授業の構造化」を意識した学習活動について（理論研究・実践・検証）
 - ①学級集団づくり（Q-Uの分析と結果を生かした取り組み）
 - ②導入部分で見通しを持たせるための工夫
 - ③学び合いを深めるための手立て
 - ④思考を深めるための振り返りの方法
- 言語活動の充実
- 言語活動を整えるための日常的な取り組みの共有
- NRTの分析と結果を生かした取り組み
- 授業案の作成・検討及び授業実践

(2) 研究の方法

- ①講師を招いての学習会
- ②授業研究会（2回）
- ③一人一実践授業の提供

年間校内研修計画

研究主任 小幡 香織

実施月日	研修内容（領域）		担当・学年	T・C要請	
4	8	第1回	研究の方向性について	研究主任	
	15	第2回	研究主題・内容・方法・組織・年間計画	研究主任	
5	1	第3回	各ブロックの研究（授業づくり）	ブロック長	
	5				
	27	第4回	各ブロックの研究（K-13法での分析）	ブロック長	
6	1	第5回	学習会	研究主任	○
	0				
	22	第6回	各ブロックの研究（授業づくり）	ブロック長	
7	6	第7回	各ブロックの研究（授業づくり）	ブロック長	
8	19	第8回	教育課程 2学期の学級づくりの取り組み確認	研究主任	
9	2	第9回	各ブロックの研究（授業づくり）	ブロック長	
	16	第10回	授業案検討（4年）	研究主任	
10	7	第11回	各ブロックの研究（授業づくり）	ブロック長	
	1	第12回	研究授業・研究会（4年）	研究主任	○
	4	第13回	授業案検討（3年）	研究主任	
11	4	第14回	各ブロックの研究（K-13法での分析）	ブロック長	
	1	第15回	各ブロックの研究（授業づくり）	ブロック長	
	8				

	1 9	第16回	研究紀要に向けての準備	研究主任	
	2 7	第17回	研究授業・研究会（3年）	研究主任	○
1 2	1 6	第18回	各ブロックのまとめ	ブロック長	
1	1 8	第19回	研究の成果と課題のまとめ	研究主任	
2	2 4	第20回	来年度の研究の方向性について	研究主任	
3	2	第21回	研究紀要作成	研究主任	

※この他に、研究テーマに沿って全職員が授業実践を行い、お互いに授業を参観することにより、研究を深める。